

第4章

戦略プロジェクト

4-1	テーマ別戦略プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・	114
4-2	エリア別戦略プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・	120

第3章で定めた基本戦略および主要施策に基づいて「鳥羽うみ文化」の継承と創造を通じた魅力ある観光地鳥羽を市内全体で形成するため、重点的に取り組むべきプロジェクトをテーマ別戦略プロジェクトとエリア別戦略プロジェクトの6つ設定します。

○テーマ別戦略プロジェクト

基本戦略および主要施策に対応した4つのプロジェクトを定めますが、対応する基本戦略および主要施策に留まらず、必要に応じてその他の基本戦略・主要施策を交えてプロジェクトを推進します。また、テーマ別戦略プロジェクトは市内全地域で取り組みます。

○エリア別戦略プロジェクト

中心市街地と離島で進める2つのプロジェクトを定めます。複数の基本戦略や主要施策を横断的に捉え、プロジェクトを推進します。

なお、各プロジェクトには主な取り組み例を記載していますが、次年度策定予定のアクションプログラムにおいてより具体的な事業を検討していくことになります。

図表 4-1 戦略プロジェクト

テーマ別戦略プロジェクト

- 1 鳥羽市全体における鳥羽うみ文化ネットワーク構想
- 2 漁業と観光の連携
- 3 芸術を活かした観光振興
- 4 インバウンド受入推進

エリア別戦略プロジェクト

- 1 中心市街地の賑わい・魅力創出
- 2 新たな島旅の推進



鳥羽城 三ノ丸広場



八幡祭(答志島)

4—1. テーマ別戦略プロジェクト

1 鳥羽市全体における鳥羽うみ文化ネットワーク構想 【主要施策 2-1 に対応】

鳥羽には鳥羽水族館やミキモト真珠島、海の博物館といった、海にまつわる一流の文化・観光施設があります。また、集落には海女文化資料館や海女小屋などの施設もあります。そこで、鳥羽らしさである「鳥羽うみ文化」をより深く観光客に感じていただけるよう、海に関する観光・文化施設それぞれが「鳥羽うみ文化」を発信できるよう、機能の向上に努めます。また、それらの施設をネットワーク化することで、鳥羽市全体で「鳥羽うみ文化」の伝達を高めます。

主な取り組み例

<各施設における「鳥羽うみ文化」の発信機能の強化>

- 各施設が伝える「鳥羽うみ文化」を明確化し、市民や観光客が施設を周遊することで鳥羽うみ文化の全体像を学べるようにする
- 鳥羽うみを再現した展示を作るなど、各施設における展示内容や展示方法を見直し、「鳥羽うみ文化」の伝達機能を高める

<「鳥羽うみ文化」を活かした誘客>

- 関係する施設が連携して商品造成を旅行会社に働きかける
- 関係する施設が連携して対外プロモーション活動を展開する

<施設間の連携>

- 関係する施設が連携してイベントを実施したり企画展を開催したりするなど、施設間で連携した取り組みを検討する
- 施設周遊券の販売

<施設とフィールドとの連携>

- 施設で学んだ「鳥羽うみ文化」に実際に触れられる空間としてフィールドを位置づける
- 船に乗って各施設や集落などを巡りながら鳥羽うみ文化を体験できるプログラムを構築する

<施設の経営持続性>

- クラウドファンディング¹などの資金調達方法を活用し施設の持続的な経営を支える

¹ 新規・成長企業等と資金提供者をインターネット経由で結びつけ、多数の資金提供者から少額ずつ資金を集める仕組みで、寄付型、購入型、投資型の3種に大別される（内閣府消費者委員会の説明より引用）

2 漁業と観光の連携 【主要施策 1-2 に対応】

鳥羽は古くから漁業が盛んな地域で、恵まれた海洋環境に立地し、地区毎に獲れる魚介類の種類も漁法も多様です。魚介を中心とする食に対しては、観光客の期待も高く、漁業と観光は、鳥羽市の重要な基幹産業として、鳥羽市経済を牽引してきました。しかし、漁業従事者の後継者不足や魚価の低迷など、鳥羽の観光を支える漁業の課題も多く、漁業と観光の連携を通じて鳥羽の魚介類の地元利用の更なる向上とブランド力の向上を目指します。

鳥羽市では、市観光協会が主体となって平成 26 年度に「漁業と観光の連携促進計画」を策定しており、本プロジェクトは当計画に則って事業を進めます。

主な取り組み例

<鳥羽の魚を PR する>

- ▶ 宿泊施設や観光施設において、鳥羽で獲れる魚種や鳥羽独自の漁法など、漁業と魚の特徴を PR する
- ▶ 漁業と観光が共同してプロモーションを行う
- ▶ 漁業と観光がタイアップしたイベントを開催する

<鳥羽の魚を食べる>

- ▶ 鳥羽の海で獲れた旬の魚を宿泊施設やまちなかで食べられるようにする
- ▶ 鳥羽の魚を使った創作料理を作り出し、市民や観光客が食べられるようにする
- ▶ 鳥羽の漁村ならではの郷土料理を観光客も食べられるようにする

<観光客が漁業を知る・触れ合う>

- ▶ 漁業や海女漁のスケジュールを観光案内所や宿泊施設などで情報提供し、観光客が漁業や海女漁などの様子を見学できるようにする
- ▶ 漁師や海女と語り合ったり食事をしたりするようなプログラムを造成し、観光客に漁業に対する興味・関心を持ってもらう

3 芸術を活かした観光振興 【主要施策 2-3 に対応】

近年、芸術・文化を活用していかに「地域資源」を見せていくのか、という試みが全国的に注目されています。従来、ストリートアートは地域がその芸術・文化を見せる場を提供するものでしたが、香川県直島をはじめとする日本全国のアート・プロジェクトは、芸術作品そのものが目的ではなく手段として機能しています。つまり、まちなかに芸術作品が展示されることによって、それまで気付かなかった地域固有の風景や魅力に気付くことがあります。

さらに、芸術家がまちなかに滞在し、芸術家と市民が一緒になって芸術作品を作り上げるプロセスに市民を巻き込むことで、観光地づくりの主体として市民を巻き込んだり、アーティストの定住を促進するなどの効果があります。

鳥羽市には、まだまだ掘り起こしができる地域資源が数多くあります。芸術家や芸術作品を活用して、地域資源を再認識したり、これまでとは異なる客層を呼び込むことを目指します。

主な取り組み例

○短中期的取り組み

<アート・プロジェクトの開催>

- 数年以内に鳥羽アート・プロジェクトを試験的に実施し、アートを活かした観光振興の可能性を探る
- 亀山トリエンナーレや佐久島アートプラン 21 など、近隣地域のアート・プロジェクトと連携する

○中長期的取り組み

<芸術家を呼び込む>

- 国内外から鳥羽市内に滞在して創作活動をしていただけるアーティストを招へいするためのプログラムや仕組み・体制を検討する

<制作プロセスに市民を巻き込む>

- 市民参加型の芸術作品を芸術家とともに作り上げ、市民の芸術に対する理解を促す

<芸術作品の展示場所として地域資源を活用する>

- 芸術作品の展示場所として、地域の歴史的な資源等を活用する

〔コラム〕 神山アーティスト・イン・レジデンス

徳島県の山間部に位置する神山町では平成 11 年から「神山アーティスト・イン・レジデンス事業 (KAIR)」を実施している。毎年 3 名 (海外 2 名、国内 1 名) の芸術家を招へいし、地域に居住して市民とともに芸術作品を作る支援をしている。旅費や滞在費は KAIR 実行委員会が負担し、その代わりに芸術家が制作した芸術は神山町に残してもらうことになっている。芸術家は滞在中に市内小中学校の美術の授業を行ったり、芸術作品を市民とともに作ったりするなど、地域に根付いた活動を行う。

芸術家が制作した作品は、廃校の教室や校庭、川原や山の中などに展示される。芸術作品を通じて町の何気ない風景が際立って見えるようになる。

神山には毎年 100 名以上の芸術家からの応募があるという。これほどの魅力を惹きつけるのは、プログラムの支援制度だけではなく、神山町が持つその風景や伝統文化など、地域資源にある。さらに、神山はすなわち God mountain。その名前自体から神山に対する魅力や芸術作品を産むための力を感じるという芸術家もいると聞く。

同じく「神」という地名を持つ神島ではいかがであろうか。



青峯山正福寺

4 インバウンド受入推進 【基本戦略5に対応】

訪日外国人旅行者の受入は鳥羽市にとって喫緊の課題です。しかし、訪日外国人旅行者の受入には、プロモーション活動だけでは不十分で、鳥羽のどのような価値を外国人に訴求するのか、という外国人観光客のための魅力の掘り起こしなどの受入環境の整備が必要です。また、訪日外国人旅行者と言っても国籍や地域によって信条や嗜好は全く異なります。したがって、訪日外国人旅行者の拡大を目指すためには、どの国・地域をターゲットに取り組むのかという戦略的な判断も必要です。

本戦略プロジェクトを通じて、訪日外国人旅行者の受入拡大を目指します。

主な取り組み例

○短期的取り組み

<近隣地域と連携した誘客プロモーションの実施>

- 伊勢神宮や伊賀流忍者博物館など、既に外国人旅行者が訪れている地域と連携して海外への誘客プロモーションを実施する
- 中部国際空港における鳥羽の情報発信を拡大する

<受入体制・環境整備>

- 観光協会や観光案内所、宿泊施設等において多言語対応可能なスタッフの雇用を促進する
- 観光案内所や案内サインの多言語化を進める
- 市民向けの外国人のおもてなし講習会の実施
- 宿泊施設や観光施設などで無料 Wi-Fi の整備を行う

○中長期的取り組み

<ターゲットとする国籍・地域の見極め>

- 国籍・地域による訪日旅行ニーズの違いを把握する

<魅力の訴求>

- 海女文化や豊かな食など外国人観光客に訴求できる鳥羽の魅力を整理し、観光ブランド戦略を策定する
- 鳥羽の魅力を外国人向けに磨きあげる(海女文化を分かりやすく伝えるための方法を検討するなど)
- 伊勢市や志摩市などと連携して伊勢志摩地方を体験する観光ルートを作る
- 白川郷や飛騨高山、名古屋、伊賀、熊野古道などと連携し、日本の文化を伝える観光ルートの構築を目指す

<ターゲットに合わせた情報発信>

- ▶ 海外のガイドブックへの掲載の促進（例：ミシュランの星を獲得するための取組みなど）
- ▶ 外国人ブロガーの招へいや SNS などを通じたプロモーションの実施

<外国人観光客のニーズ調査の実施>

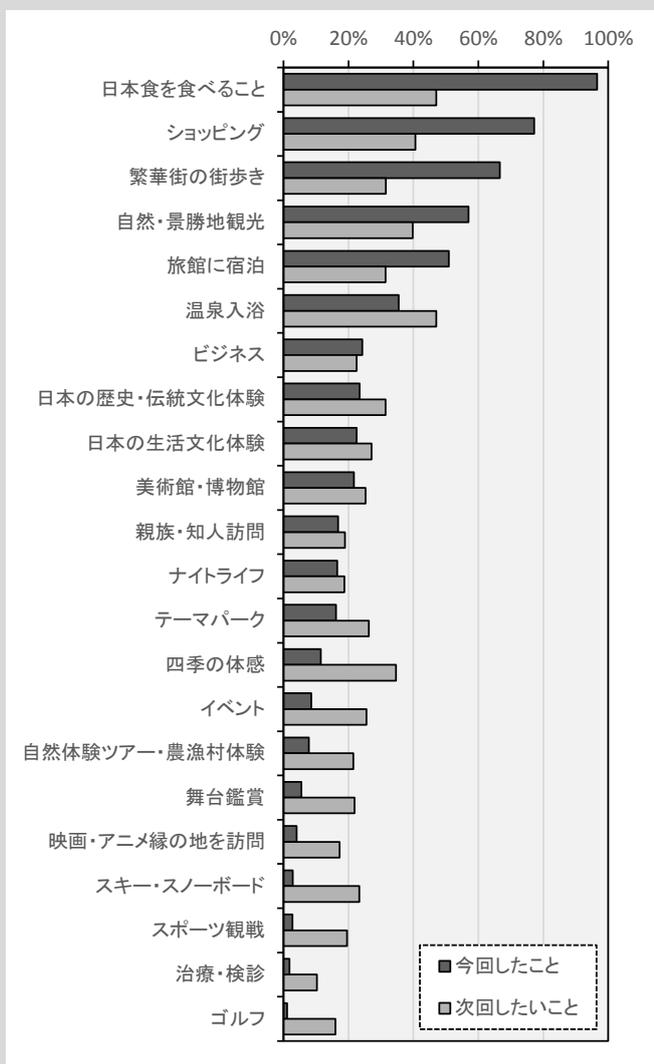
- ▶ 鳥羽市を訪問した外国人観光客に対するアンケート調査を実施し、ニーズや受入にあたっての課題などを把握し、改善に努める

【コラム】訪日外国人旅行者の日本国内での活動

いよいよ年間 1,000 万人を突破した訪日外国人旅行市場。外国人観光客は日本滞在中にどのような活動をしているのだろうか。観光庁が平成 22 年度より実施している「訪日外国人消費動向調査」の平成 25 年調査結果によると、全国籍・地域で最も多いのは「日本食を食べること」で 97%にのぼり、「ショッピング (77%)」や「繁華街の街歩き (67%)」、「自然・景勝地観光 (57%)」と続く。

また、今回の訪日旅行でしたい活動をみると、「日本食を食べること (47%)」、「温泉入浴 (47%)」、「ショッピング (41%)」となっている。ほか、「四季の体感」や「自然体験ツアー・農漁村体験」などについても高い比率となっている。

こうした傾向は、国籍や地域によっても異なるため、鳥羽市がターゲットとする国籍・地域を見定める際には、国の統計調査等を活用することが望まれる。



出所：訪日外国人消費動向調査平成 25 年年次報告書

4—2. エリア別戦略プロジェクト

特に重点的に観光地としての魅力向上を推進する必要がある中心市街地と離島については、エリア別戦略プロジェクトとして位置づけます。

1 中心市街地の賑わい・魅力創出

鳥羽駅は観光客にとっての玄関口としての機能を持っています。駅周辺には観光案内所や鳥羽ビジターセンター、鳥羽マルシェ、かもめの散歩道、鳥羽マリンターミナル、民間の観光関連施設など、観光をする上で重要な拠点施設が揃っています。

南側の中心市街地には鳥羽城跡を中心に、今も伝統的・歴史的建造物が多く残っています。それらは点ではなく群として残存しており、歴史的景観を形成する要素になっています。また、江戸末期から昭和戦前まで幅広い年次に建築された建造物があり、鳥羽の歴史を語る重要な資源と言えます。

こうした多様な観光資源や観光施設を集積する鳥羽駅を中心とする周辺空間については、鳥羽らしさを感じられるような空間へと仕上げる必要があります。

主な取り組み例

< 駅前空間の魅力づくり >

- 鳥羽駅から鳥羽一番街や鳥羽マルシェ、鳥羽マリンターミナルまで観光客を誘導するような案内サインや空間の整備を行う
- 鳥羽マルシェやかもめの散歩道で海を眺めながら鳥羽の海産物を食べられるような空間を作る（ベンチを設置する、屋台を開くなど）
- 鳥羽マルシェを活用した市民や観光客向けのイベントを開催する

< 中心市街地の空き家再生 >

- 空家となっている町家を修復し、町並みに統一感を演出すると同時に、店舗や住居として活用できる状態にする
- 市内の小中高校や近隣の大学などと連携して、町家を利用した実験店舗を運営し、町家の店舗利用の可能性を探る

< 中心市街地の商店街再生 >

- 鳥羽の魚介類をその場で食べ歩きできるような店舗と一休みできるベンチの設置
- 商店街のディスプレイを工夫して、市民や観光客が楽しく買い物をしたくなるような空間を演出する

- ▶ 町家や商店をライトアップしたり、繁忙期は商店街の営業時間を遅めたりすることで、中心市街地の夜の魅力を向上させる

＜中心市街地の周遊促進＞

- ▶ 駅を中心とし、海側と市街地側の一体的な賑わいを創出し、観光客が周遊できる空間作りを目指す

〔コラム〕千葉県香取市佐原地区の町家再生

千葉県香取市佐原地区は、江戸時代に舟運の拠点として栄えた町で、現在でも当時を忍ばせる多くの歴史的建造物が点在し、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている。近年、まちなかの歴史的建造物がレストランや交流拠点として再生され、観光客の賑わいを生んでいる。

香取市では行政が主体的に町家の修理・修復を手掛けてきた。そして修復した町家の再生にあたっては、大学研究室との連携により実験的に町家を店舗として運営し、その成果の住民との共有を図ってきた。それらの町家は現在、民間事業者がレストランやカフェとして運営されており、その他にも「夢時庵（フランス料理店）」や「カフェしえと」など多くの町家が魅力的なコンテンツを持つ店舗として再生している。

町家の再生を進めるにあたって注意すべき点としては、町家の有する歴史的価値を損なわないこと、魅力的なコンテンツを有すること、市民も観光客も楽しめる用途を混在させることなどがあげられよう。



鳥羽市中心街の様子

2 新たな島旅の推進

鳥羽の有人離島は神島、答志島、菅島、坂手島があり、それぞれ、個性豊かな魅力を兼ね備えています。そこで、離島の魅力をより一層引き立てながら、島旅を推進します。

主な取り組み例

<スポーツイベントの開催>

- 4 離島の地形を活かしたスポーツイベントの実施

<ウォーキングルートや健康滞在プログラムの造成>

- トレイルランコースや島の歴史資源探索コースなどを作る

<離島で食を楽しむ>

- わざわざ離島を訪れたくなるような食を提供する（ランチを食べに船に乗る）
- 漁師の船に乗って魚を獲り、その場で食事を楽しめるような体験プログラム造成

<離島の風景を楽しむ>

- 離島を船で一周し、市民も知らないような景観を楽しめるようにする



しろんご祭（菅島）



神島時計台と街並み

【コラム】イタリア・ポルトヴェーネレ、チンクエッレと小島群における観光振興の取り組み

イタリア北部の都市ジェノバの南にあるリグリア海に浮かぶ3つの島（パルマリア島、ティーノ島、ティネット島）はその周辺地域を含めたエリアとともに、険しい海岸に囲まれた家屋が文化的景観として平成9年に世界文化遺産に登録されている。

ここでは、観光客が島々の景観を海から楽しめるように船が運航している。具体的には、船に乗ってチンクエッレの各村を周遊するというのが一つの観光パターンにもなっており、また船上から見る沿岸部や、小島群の景観は、陸上からでは見ることのできない美しさがあるとして、高く評価されている。

また、各島内には歩いて楽しめるようなトレッキングコースが整備されている。

